

すべての原発いましてなくそう！ 全国会議

NAZEN 通信



第54号

2017.10.11発行

カンパ 5.0円

発行：NAZEN 事務局

東京都杉並区天沼 2-3-7 さかいビル 3B

info@nazen.info

トランプ訪日に 11/5 反戦大デモを 衆院選で安倍・小池たおそう

みなさん。ついに東京電力柏崎刈羽原発の「安全基準合格」が発表され、福島原発事故を引き起こした大犯罪企業・東京電力が原子力発電に返り咲こうとしています。帰還困難区域の解除と住宅提供の打ち切り・帰還強制が進められ、困難区域の駅周辺だけでも除染しオリンピックまでに常磐線を全線開通すると宣言された。福島県民だけには20倍の被曝線量基準を強制しておきながら、191人を数える小児甲状腺がんについては「原発事故の影響ではない」の一点張り。東電はどの口で「安全より経営を優先しない」などと言うのか！そして子どもたちの命を食べ物にする金儲けを居直る国家！

さらに北朝鮮をめぐって日米が本気になって核戦争を仕掛けています。戦争は「どの国が先にしかけたか」が本質ではありません。「誰が戦争で儲け、誰が犠牲になるのか」です。シリアへの空爆ではトランプ大統領が株を握る軍需産業が数千億円を儲けた。子どもたちを戦場に送ってぼろ儲けするやつも、原発で儲けるやつも同じ連中だ。そして「働き方改革」で儲けようとして



原発なくせと 9500人がデモ (9/18 渋谷)

いる連中も！ トランプも安倍もキムジョンウンもまとめてぶっ飛ばし、この社会まるごと変えよう。トランプ大統領が11月に訪日、安倍首相と朝鮮戦争の会談をやろうとしています。11月5日、1万人のデモで私たちの戦争反対の意思を、そして世界への連帯の意思を示そう。

衆院選では自民党の歴史的崩壊を救うためのくだらない結党に誰もが怒っている。安倍も小池も戦争・改憲の選択肢です。やつらはの時代は終わった。東京8区の斎藤いくま候補を支持しともに闘いましょう。

◆9・18さようなら原発集会の発言より 原発賠償関西訴訟原告団・森松明希子代表	…	2ページ
◆福島の学校を訪問しました 被曝と帰還の強制反対署名の広がり 渡邊馨	…	3ページ
◆柏崎刈羽原発再稼働を許さない 事務局	…	4ページ
◆甲状腺検査縮小許さない 署名運動の発展へ東京で杉井医師の学習会	…	5ページ
◆JR常磐線の富岡延伸阻止 9・23いわき集会の発言より	…	6ページ
◆9月17日に改憲・戦争と常磐線延伸反対で集会 NAZEN 関西	…	7ページ

原発は平和と共存できない

9月18日のさようなら原発代々木集会での森松さん（避難者）の発言を要約して紹介します。

私は2人の子どもを連れて、福島から大阪に避難をし続けていますが、この6年半、平和のうちに生きてると実感したことは一度もありません。憲法の最初の前文には「全世界の国民は、恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」と高らかにうたい、個人の尊厳の尊重を最高の法規にし、生きる権利を保障しています。しかし福島事故を経験して、この国は本当に平和のうちに生存する権利、人の命や健康を最も大切にする方向に舵を切っているのでしょうか。私はそうは思いません(そうだ!)

私は、私の子どもだけが被曝をまぬがれたらそれでいいとは思えません。次の世代を担うのは子どもたちなんです。ところが原発事故を経験しているのに、子どもたちの命と健康を一番に考える方向に舵を切れていないことを証明しつつづけている6年半であったといえるのではないのでしょうか(拍手)。



●被害を共有することが希望になる

みなさん！ 平和のうちに生きる権利は、いまこの場でこんなにたくさんの人たちが、原子力災害をつうじて思いを寄せることで一致共鳴できるのです。今日は福島から、そして全国に散らばっている避難者たち、おおくの被災者たちがこの会場にもいてくださっています。私たち避難者が何に一番励まされるかという、福島原発事故の被害の実相を少しでも一緒に共有してくださろうという熱いみなさんのこのまなざしと想いなんです。それが一番被災地の人たちの励ましとなり、そして前を向いて歩ける。本当の意味での復興の希望になるのです。

「復興のために」とか、「原発止めたら経済が」

とか、そういうまやかにだまされたいけないと思うのです(拍手)。

●原発事故の被災者は核被害者と同じ

みなさん、平和とは何ですか？ 私はこの6年半、平和とは日常の平穏な暮らしそのもの、日々の日常そのものだということを、身をもって体感しました。それは先の太平洋戦争でも、「逃げずに火を消せ」「お国のために」と思想停止を全国民に強いて突き進んだ。そのことを私たちは学ぶべきだし、学んでいます。

原発が爆発してばらまくものは放射能。72年前、終戦を迎えるにあたって、最後に広島と長崎で落とされた原子力爆弾。そこでばらまかれたものも放射能なんです。この国は広島、長崎、そして福島を経験しているのに、それでもなお原子力発電所にしがみつくなのか。それともそこから手を切って、違う方向に進みだすのかは、私たち自身に問われている問題だと避難をしている私自身も思っています(拍手)。

そういう観点から、福島原発事故の被災者は、つまりは核被害者と同じなんです。世界に対して恥ずかしくない行動を、私は一人の大人としてとりたい。

●全国の避難者とつながることが平和への道

全国にいる避難者と、原発事故がどういう被害を与えるのかということと一緒に共有すること、それは平和につながる道なのです。そのことを今日私はみなさんと一緒に確認をしたい。いま私たち福島原発事故の被災者にできることは、普通の人びとの暮らしを奪う原発の事故がどういうものであるか。それが明らかに平和を脅かすこと。福島事故が、平和と原発が共存できないことを証明し続けているということ。それを伝えていくことだと思います。

そのうえで、私も世界に向けて平和を、そして放射線被曝からまぬがれ、健康を享受するという憲法の前文にも書いてある、平和に生きる権利というものを一緒にかちとっていきたいと思っています(大きな拍手)。



「被曝と帰還の強制反対署名」 福島を訪問 しました

NAZENフクシマ
渡辺 馨



さようなら原発9・18集会、福島診療所
建設委員会で251の署名を集める！

私たちは福島県内の小・中学校の労働組合の役員の方または養護教員の方を訪ねて、署名をお願いしてきました。これまで14校から180筆の署名が送られてきています。今回、椎名千恵子さんと一緒に、私たち二人の地元である伊達市内の学校を訪問した報告をします。

◇**A中学校** 分会長の方が対応してくれてこの学校でも避難されている方が多くいると、話をしっかり聞いてくれました。組合員は9人(全体の3分の1だそうです)。「ひとり1枚やればいいですか」と積極的に対応してくれます。ここは椎名さんの母校で、対応してくれた分会長さんが椎名さんのお孫さんの担任の先生だったこともわかり、話は盛り上がりました。「足りないときはコピーしてください」と資料を渡してきたら、後日9月末に30筆の署名が届いていました。

◇**B中学校** 事務員の女性と話しました。見覚えのある人です。そうだ6年前私が中学校のPTAの時一緒に頑張ってきた人です。彼女も私のことを覚えていてくれて「あの時は本当に大変だったね」と原発事故当時の苦労など互いに一気に話し出しました。

事故当時、伊達の市長は学校長会のいうことをまったく聞かなかったため「市民の声を突き付ける」と5校のPTAで市長に押し掛けたこと。学校周辺はとんでもなく高線量で市との除染の交渉や学校再開で大変だったこと。富成地区の人たちは、国が放射線の高いところは記録せず、低いところだけを測っていったので「国は信用できない」と多くの人々が避難して行ったこと。現在全校生徒は450人で伊達市では一番生徒数が多い。飯舘村から避難している子どもも6人いるが、両親もこちらで仕事を見つけたり家を建てたりしているので皆戻らないだろうとのこと。また先生の中にも米沢に避難し、昨年県外へ引っ越した先生もいるとのこと。

◇**喫茶店で** コーヒーを飲んで休憩していると、福島の昔ばなしの語り部で有名な横山幸子さんたちが偶然入ってきました。椎名さんと顔なじみで、署名・原発事故の話をする横山さんは、「私も孫に水汲みさせてしまったんだよね」「心配なんだ」と話してくれました。

◇**都庁解雇撤回署名** これまで「被曝と帰還の強制反対署名」を取り組んでくれた分会へは、御礼を兼ねてさらに都庁福島署名解雇撤回署名をもって回っています。

福島市の小学校では女性の事務員さんが「解雇はとても許せない、みんなに回します」と好反応。C小学校の先生は、「すでに取り組んでいる」「もう少し粘って集めたい」と言ってくれました。凄いがんばりで勇気をもらえます。

◆ ◆ ◆
今回の訪問で、復興・帰還・学校再開という中で「子どもたちをどうやって守っていくのか」と必死でがんばっている先生たちが多くいることがわかりました。被曝の強制・戦争政治からどう守っていくのかという根底的な課題。そこに現場の先生たちが大きな決断として「被曝と帰還の強制反対署名」を取り組んでいます。あらためてこの署名が声をあげるきっかけとしてすごい力を持っていることを確信しました。

原発事故の圧殺行政が激しい伊達市を久しぶりに回って、伊達出身の黒川祥子さんの『「心の除染」という虚構』(集英社)にあるように、改めてその矛盾的な実態が見えてきました。そして私のPTA活動や椎名さんがやっていた文化を子どもに伝える演劇など、3・11以前にやっていた地域での活動の、すべてが無駄ではなかったということを確認しました。福島を怒りを「被曝と帰還の強制反対署名」で束ねていきたいと思います。

新潟・柏崎刈羽原発の 再稼働絶対阻止！

10月4日、原子力規制委員会は東京電力柏崎刈羽原発6、7号機について、新規規制基準への適合を認め、再稼働にゴーサインを出した。福島第一原発事故の張本人である東電が、事故の收拾もできないまま、しかも事故の責任を一切とらず、他の原発を再稼働することなど絶対に許さない。東電以外の原発再稼働も1基も認められないが、それらとは比較にならない問題だ。米山・新潟県知事は再稼働を承認しておらず、数年間の攻防となるだろう。全原発廃炉の誓いかけ、柏崎刈羽再稼働絶対阻止に立ち上がろう。

□「他でも福島第一原発事故は防げない」

規制委は、東電の再稼働が人民の怒りを招くことを恐れ、東電の「原子力事業者としての適格性」を検討するポーズをとった。次期委員長ふけたの更田豊志はその適格性の判断にあたり、「他の事業者でも福島第一原発事故を防げたとは考えにくい」と述べた（9月29日付毎日新聞）。“福島第一原発事故は仕方なかった。他の原発でも同じ事故は起きる”ということだ。「東電も適格」だと！“東電も福島第一のような事故を起こしてもいい”と言っているに等しい。

実際、東電に対する規制委の審査書には、「重大事故の拡大防止」という項目があるだけである。「重大事故の防止」は問題外で、「事故の拡大防止」でしかない。どう読んでも“重大事故が起きてかまわない”ということだ。

□甲状腺検査縮小・帰還強制と一体の狙い

重大事故が起きるとどうなるか。何十万人もの避難、数千人もの事故関連死、子どもたちなどの健康被害の頻発、高汚染地域への帰還強制…。このようなヒロシマ・ナガサキ・チェルノブイリに続く人類史上の大災害を、繰り返してはならない。

しかし安倍政権は、福島第一原発事故にともなう大災害の事実を押し隠し、“事故が起きて

も問題ない、再稼働は当然”という攻撃を仕掛けてきている。この間の甲状腺検査の縮小・



打ち切りの動き、3月末～4月初めの避難指示解除と帰還強制、「自主避難者」への住宅提供打ち切りと追い出しなどがそうだ。健康被害の事実も避難の現実も、要はなかったことにしようとしている。安倍政権と規制委員会はグルになって、これらの暴挙と一つなかりで、東電の柏崎刈羽再稼働に踏み込んできたと見なければならぬ。福島圧殺と柏崎刈羽再稼働を一つにとらえて、ともに打ち砕く運動を起こそう。

□軍事企業幹部「3カ月で原爆造れる」

「東電の経営再建のために柏崎刈羽再稼働は必要」などと宣伝されている。しかし東電は5月の「経営再建計画」でも、「再稼働や経営合理化だけでは限界がある」と公言している。柏崎刈羽再稼働の本当の狙いは、朝鮮侵略戦争が切迫する中、日本が核武装することにある。

94年にも朝鮮戦争寸前となったが、日本は核武装の検討を急いでいたことが明らかになった（9月17日付産経新聞）。当時の熊谷弘官房長官は軍事関連企業の幹部から、「日本は3カ月で原爆を造れる」と聞いたという。首相や外務省の発言・文書での核武装論が暴かれた例はあるが、民間企業では初めてだ。それを産経新聞が公にすることで、“日本はいつでも核武装できる”と誇示しようとしている。

再稼働反対・全原発廃炉の闘いは、朝鮮侵略戦争阻止・核戦争反対の闘いと一つをなす。福島圧殺、柏崎刈羽再稼働、戦争・改憲に反対する人はみな、11月5日の1万人大行進（日比谷屋音一銀座デモ）に集まろう。（事務局）

署名運動の発展へ、杉井医師が熱弁



「ぜ～んぶウソだった」。原発と日本という国の正体が露になった。あの原発事故から7年近くを迎えています。「北朝鮮の脅威」を煽って戦争動員訓練にのめり込んでいる安倍政権。そして東電は何の責任も取らないまま新潟柏崎刈羽原発が再稼働されようとしている。この新たな情勢と向き合い、「福島の小児甲状腺がん—基礎から現状までを学ぶ」と題したNAZEN東京の学習集会在9月30日にもたれました。

講師のふくしま共同診療所の杉井吉彦医師は、最初に福島が抱えている大きな問題点を列挙しました。小児甲状腺がんがすでに191人発症していること、解決不能の高濃度汚染水の処理、核燃料デブリの取り出し、取り出した物の保管、廃炉作業では膨大な数の労働者が被曝労働を強いられる、7万人の避難者問題など。そして本題である小児甲状腺がんについて、スライドを使って医学的所見も交えて話されました。

私がまず驚かされたのは、東京でやっている検討委員会に情報公開請求をしたところ、回答が墨塗りで真っ黒な用紙が返ってきたということです。福島の検討委員会は小児甲状腺がんが通常発生率の100倍以上確認されているのに、「放射能の影響とは考えにくい」といまだに表明しているデタラメ組織だが、東京でのこの姿勢も本当に許せない対応です。

さらに小児甲状腺がんは予後が良いから心配ないという県や御用学者のキャンペーンについて、反論された。そもそも甲状腺は甲状腺ホルモンなど、人間の成長に必須不可欠で重要な臓器、甲状腺ホルモンがないと人間は生きていけない。切除したら一生甲状腺ホルモンを飲み

NAZEN いけぶくろ ^{くしぶち} 櫛渕秀人 (看護師)
続けなければならない。しかも頸部^{けいぶ}という狭い部位に神経や血管が集中していて、針を刺す検査や手術自体が危険を伴う大変な作業。転移もしやすい。さらに甲状腺がんは一度切除しても15年で発症することもある。「これでも予後が良いから安心と言えるのか」と、福島県立医大の医師たちの発言を弾劾された。

医学的見地やチェルノブイリの経験からして、放射線による健康被害は小児甲状腺がんに残らない。6年半以上経過した今、これから大人も含めて本格的な被害が出てくる。循環器、消化器、免疫機能など、様々な形で健康障害が現れてきます。絶対隠しようがなくなる。こうした状況なのに、県は健康診断には欠点や利点があるなどと言いなし、検診の縮小や受診抑制を打ち出している。とんでもないことです。

被曝と帰還の強制反対署名を集めよう

質疑応答に移り、元除染労働者の参加者から「除染作業員にも検査を受ける権利があるのではないか」という意見が出され、全くその通りとの答弁。また「福島医大の未来棟という新しい病棟では白血病や甲状腺を診ると聞いているが」との質問について、あくまで未来棟は研究所であり（つまりデータを集めることが主眼—ヒロシマのABCCと同じ）、治療するという場ではない、と明快に述べられていました。

最後に、印象に残ったこととして、福島の被曝の現実と健康被害はこれからどんどん広がっていく。それに対応するにはフクシマ原爆病院のようなものが必要になるのではないかと、県立医大は現代の731部隊だ、と杉井氏が語ったことです。矛盾と破綻を深めていく原発問題。ふくしま共同診療所が果たしている大きな役割を確認し、これからも支え、守り、ここを一つのよりどころとして「被曝と帰還の強制反対署名」に取り組んで、戦争・原発を許さない闘いを皆さんと共に進めていきたいと思ひます。

常磐線富岡延伸阻止！ 9・23いわき行動うちめく



集会での主な発言の要旨

●石井真一（動労水戸委員長）

今日の闘争は、完全な戦争情勢で開催されています。資本は生き残りをかけて衆議院選に打って出てきました。そして2020年東京オリンピックに向けて、10月21日の常磐線富岡延伸から全線開通へという攻撃で福島原発事故を消し去ろうとしている。再開されれば、あらゆる労働者がすべて被曝する。安倍政権は戦争をやって私たちに命を差し出せ、被曝をして命を差し出せと、私たちに迫っています。それを断固打ち破って、真正面から闘って安倍を打倒していきたい。

●川崎昌浩（動労千葉執行委員）

原発事故は終わっていない。それを終わったのかごとく安倍やJR東日本は、いま現在でも常磐線で工事を強制している。北朝鮮のミサイルでJアラートを鳴らして、危険だとあおっているけど、そんな危険よりも危険はここにあるんですよ。

11月5日、第一部で労働者集会、第二部で改憲阻止1万人大行進を闘います。11月集会の当日にはトランプが来ているらしいです。安倍・トランプを串刺しにする1万人デモを首都東京で実現しようではありませんか。

●橋本光一（動労福島）

JR郡山工場の粉塵から1000ベクレルという値が出ています。基準の8分の1だけど、量とか、線量とかじゃなくて、危険なものが存在していること自体が危ない。だから原発があること自体が問題なんだよね。それを安倍政権と一緒に、原発や東電を守るために常磐線を延伸しているJRは絶対に許せない。JRは先頭で鉄道を輸出し経済侵略をしようとしている。その大きな柱が核なんです。だから常磐線開通反対という闘い、職場における被曝労働拒否の闘いは、そういう安倍政権、日本の資本家全体との闘い。原子力政策、核政策全体との

闘いだと思っています。

●曾澤憲一（動労水戸青年組員）

常磐線が延伸され、だんだんと福島第一原発に近づいています。毎回動労水戸も延伸拒否で闘っておりますが、力及ばず阻止とまでは行っておりません。みなさんと団結して、本当に阻止する闘いをつくっていききたい。やっぱり労働者が団結すれば、社会を変えられると思うんですよね。おかしいことにおかしいと声を出しても、お前がおかしいんじゃないかと言うやつもいます。そういうひとたちを変えるためにも、おかしいことをおかしいと声をあげて、がんばっていききたい。

●辻川慎一（動労水戸副委員長）

さきほど常磐線の運転士が署名をしてくれて、富岡までの線見訓練をやってるんですね。運転席でものすごい線量が出るそうです。特に沿線の作業でほこりが舞うと、途端に運転席の線量がバーンと4マイクロまで上がるんだって。さらに2020年までに福島第一原発の脇を通す。清掃労働者もフレコンバッグを焼く作業で被曝させられている。見えないところでやってるんだけど、労働者は全部知っている。その労働者が声をあげられない。ぼくは自分の解雇をめぐって、昨日ストライキをやって、全労働者に訴えました。一番こぶしをあげて応えてくれたのは清掃の青年なんです。福島でも東京でも、本当に信じられる存在が登場したときに、どんなことがあったって一緒に闘えるようになる。僕たちはその目前まで来たと思う。

今日の集会を起点に、10・21富岡延伸闘争を動労水戸は断固として闘う。われわれはどんなことがあってもあきらめない。10月22日の衆院選に全学連委員長の齋藤いくま君が出馬する。彼の決断を全身全霊で支え切って、この秋の闘いをぶち抜いて、数万数十万の支持を生みだしましょう。

関西各地でNAZENを結成し 11月労働者集会へ集会とデモ



NAZEN 関西 あごう 吾郷春代

9月17日(日)に大坂・弁天町で「常磐線の延伸反対! 福島と団結しよう! 原発再稼働反対! ナゼン関西集会とデモ」を90人の結集で勝ち取りました。動労水戸の石井委員長をお招きして、9・23いわき闘争から11月労働者集会に向けての決意と、地域NAZENの結成と前進を勝ち取る決意をうち固めました。

基調提起をNAZEN大阪の木下さんが行い、「朝鮮半島はいつ戦争が起きてもおかしくない情勢にある。戦争の危機をあおって改憲、労働法制改悪を行おうとしているが、追い詰められているのは安倍政権。国鉄闘争を基軸に労働者人民の決起が始まっている。戦争攻撃と常磐線延伸は一体の攻撃。9・23と11・5を全力で闘おう」と熱く訴えました。

続いて石井委員長がパワーポイントを使って、動労水戸の闘いの歴史、被曝労働拒否と常磐線延伸反対のストと闘いを詳しく展開して、「ストライキのできる動労総連合を広めよう。9・23いわき闘争と11・5労働者集会を闘おう」と訴えられました。

京都府職労舞鶴支部からは、「大飯原発の説明会で住民からも『避難できるのか?!』と声が上がっている。音海地区おとみも反対の声を上げている。9・8原発再稼働反対集会に支部の労働者と共に中学生も7~8人参加した。高浜・大飯原発再稼働反対闘争を闘おう」と福島と連帯して闘う自治体労働者の闘いの前進に確信を持った訴えが続きしました。

八尾北医療センター労働組合は、「拠点建設のための2・26舞鶴闘争を関西の全体の手で闘い、八尾北はエコー検査をふくしま共同診療

所と連帯して取り組んだ」「住民訴訟の準備としても行った八尾北祭りが、地域ソビエトの結成に向かう闘いとして大成功した」と、この間の闘いがつながり大きな成功を実現したと確信に満ちた報告を行いました。

新しくNAZENを結成した奈良は、代表のメッセージで「福島原発事故の後、福島県教組をたずね交流した。朝鮮戦争と改憲が迫っている中で、労働者が全力で闘おう!」と、拠点を基軸に再稼働反対、戦争反対を闘うと表明しました。

同じく新しくNAZENを結成した豊中は、「地域にNAZENは必要。職場の闘いと一体で闘う。定例会や福島署名の街宣を行っている」と報告を行いました。

会場からの討論で、北摂労組交流センターは、「高槻医療福祉労働組合を基軸に、地域NAZENの準備会をつくる」と決意を表明し、動労西日本の労働者は、「国鉄闘争を基軸に改憲・戦争を止めよう!」と呼びかけ、NAZEN大阪の労働者は、「月1回の定例会と福島署名の街宣を行い、大きな手ごたえを感じている。常磐線開通は許せない!」と、9・23いわき闘争を闘う決意を表明しました。NAZEN京都は、「原発労働者と地域の労働者がつながることが大切。高浜・大飯原発再稼働反対で闘おう」と舞鶴支部と連帯して闘うことを表明し、婦人民主クラブ全国協議会関西ブロックの仲間は、「Jアラートは戦争を煽るもの。改憲をねらう重大な情勢あおの中で、舞鶴闘争に中学生が参加。そういう時代が来た」と、決意を鮮明に語りました。

台風接近中でしたが、大注目の中、軽やかなリズムに合わせてデモも楽しく行いました。

改憲・戦争、常磐線延伸、原発再稼働反対は一体の闘いです。11・5労働者集会と改憲阻止! 1万人大行進を闘い、ゼネストから労働者が主人公の社会をつくるために共に闘いましょう。

スケジュール

■都庁解雇撤回！座り込み

と き 10月12、26日(木)
17時～19時
(毎月第2第4木曜日)

ところ 新宿・都庁議事堂レストラン前
主催 都庁ふくしま署名解雇を許さない会
<http://totyofuku.blog.jp/>

■神奈川東電デモ第62弾

と き 10月27日(金)
18時～桜木町駅前で街頭宣伝
19時～デモ

主 催 神奈川東電デモ実行委員会

■常磐線運航再開反対！富岡現地行動

と き 10月21日(土)午前・富岡駅前
主 催 動労水戸
<http://doromito.blog.shinobi.jp/>

■第29弾 東電直撃デモ

(延期の可能性があります。参加される方は新橋アクションのブログを確認してください)

と き 10月23日(月)
17時30分 新橋駅SL広場前
リレーアピール

18時30分 桜田公園出発

主催 原発とめろ 新橋アクション
http://blog.goo.ne.jp/shinbashi_action
電話 なんぶユニオン 03-3778-0717

■NAZEN 福岡結成6周年集会

講演 布施幸彦さん(ふくしま共同診療所院長)
と き 11月25日(土)13時開場 13時30分開会
ところ 福岡市早良市民センター 第2会議室



みなさんの力でNAZENの活動を支えてください。年会費個人一口2000円、団体一口3000円です。おかげさまで夏の北富士保養は大成功しました。また来年に向けカンパは通年で受け付けていますので、ご協力お願いいたします。

◆◆◆ 郵便局 振替口座 ◆◆◆

口座番号 00120-8-763817
加入者名 NAZEN
銀行口座からの振込の場合 ○一九店 0763817
※振り込みの際は、「年会費〇人、〇団体分」
「保養カンパ」などお書き下さい



■戦争と民営化・労働法制解体に反対する

11・5全国労働者集会

と き 11月5日(日)正午～
ところ 日比谷野外音楽堂

■改憲阻止！1万人大行進

と き 11月5日(日)午後2時～
ところ 日比谷野外音楽堂→銀座→東京駅
呼びかけ 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部 / 全国金属機械労働組合港合同 / 国鉄千葉動力車労働組合 連絡先043(222)7207

◆◆◆ 診療所基金はこちら ◆◆◆

福島診療所建設委員会の口座へ

★郵便振込口座 02200-8-126405

福島診療所建設基金

★銀行口座

福島銀行 本店(110)普通 1252841

福島診療所建設基金 代表 渡辺 馨

★PayPalでのお振り込み

アカウント

clinicfukushima@yahoo.co.jp

渡辺馨(福島診療所建設委員会)

